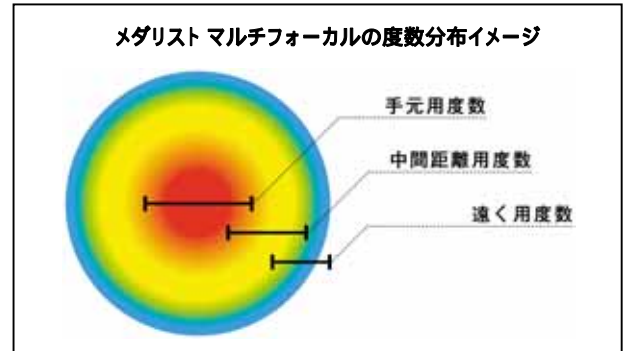


「ボシュロム メダリスト マルチフォーカル」3つの特長

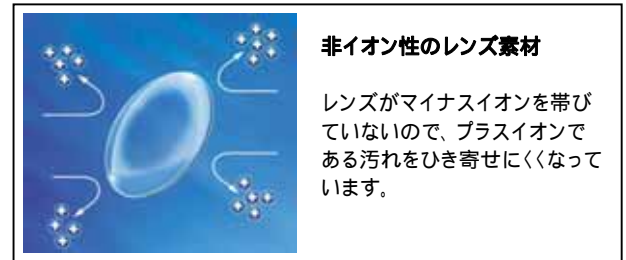
バイフォーカルから「マルチフォーカル」へ 累進構造の次世代型レンズデザイン

従来の遠近両用(バイフォーカル)コンタクトレンズは、遠近の度数が隣接しているため、見え方に違和感があったり、慣れるまでに時間がかかるといったことがありました。メダリスト マルチフォーカルは、手元用の度数から周辺に向かいだんだんと遠く用の度数へと境目なく自然に変化する構造を採用することにより、装用開始から短期間で慣れ易く自然な見え方が得られます。



うるおい感が持続するレンズ素材

一定の水分量を安定して保つ低含水、汚れがつきにくく乾燥しにくい非イオン性の素材を採用。涙の質や量が低下してくる40代からの瞳にもうるおいが長時間続きます。



手元が見づらくても扱いやすく

取扱い時にレンズが見やすいブルーカラーを採用。(装用時に目の色が変わって見えることはありません)
また、指の上でも形がやさしく安定するため毎日のつけはずしが簡単に行えます。

【老眼のしくみ】

人間の目は、近くを見る時・遠くを見る時で水晶体(眼球内のレンズ)の厚さを自動的に調節して見たいものにピントを合わせる機能を持っていますが、年齢と共に水晶体が硬くなったり、それを支える毛様体筋の働きが低下したりして、近くにピントを合わせることができなくなるのが老眼です。

新聞などを約30cm以上離さないと見えにくい場合は老眼の可能性があり。老眼は一般的には40歳を過ぎたころから起こりますが、個人差があり、早い人では30代半ばから始まります。

【ピント調節のしくみ】

